

4 青年期

(1)若者の自立支援・・・ひきこもり・ニート・不登校や様々な課題を抱える若者が、就労・就学等の社会参加ができるよう、自立に向けた支援を行います。

事業No.	事業	内容	行動目標	平成28年度の取組と実績	平成28年度の取組と実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善項目	担当課
1401	子ども・若者を対象とした相談窓口	課題を持つ青少年に対して、諸問題を解決するため、必要に応じて適切な関係機関と連携できるよう相談窓口を充実します。	質的充実	茨木市子ども・若者支援地域協議会の各構成機関が窓口となり、相談支援を実施した。	【行政】各機関が必要に応じて関係機関と連携しながら対応した。	各機関で滞留・長期化するケースが出ないよう、知識・技能の向上を図りつつ、継続して実施する。	こども政策課
1401	子ども・若者を対象とした相談窓口	課題を持つ青少年に対して、諸問題を解決するため、必要に応じて適切な関係機関と連携できるよう相談窓口を充実します。	継続	電話及び面接による相談を実施した。 相談件数 4件	【行政】必要に応じて当該児童・生徒の所属校等への連絡や関係機関の紹介等を行い、相談者の不安を解消する一助となった。	学校や関係機関との連携を図りつつ、継続して実施する。	青少年課
1402	子ども・若者自立支援センターにおける相談・支援	ひきこもり等の状態にある子ども・若者が社会参加できるよう、「子ども・若者自立支援センター」において、ひきこもり等の当事者や家族の相談・支援を行います。また、低所得世帯に対し、相談料等の助成を行います。	継続	子ども・若者自立支援センター「くろす」において、ニート・不登校をはじめとする生きづらさを抱えた子ども・若者とその保護者の相談・支援を行った。 また、センター利用について生活保護世帯・市民税非課税世帯等には、申請により利用券を交付することで無料とした。 面談 親254件(36件)、本人285件(33件) 居場所 221件(27件) 同行支援 1件(0件) 訪問 33件(0件) 電話相談 205件 他機関・企業連携実績 232件 利用券交付 23人 ※()は利用券交付者が前センター「茨木プラッツ」を継続利用した件数 子ども・若者向けのチラシを作成し、公立の小学6年生と中学3年生と教員に配付して周知をした。	【行政】平成28年度より子ども・若者自立支援センターの委託先が変わり、上半期は周知に力点をかけた結果、面談をはじめ、訪問支援や、他機関・企業連携件数が増加傾向にある。 市民税課税世帯は、センター利用が有料となるため、支援につながらないケースがあることが課題である。 また、CSWをはじめとする支援者支援を実施することで、停滞していたケースが動き出している。 【市民】センターの無料化を希望する意見があった。	平成29年度より、センター利用助成対象を拡大した。引き続き、より多くの市民が利用できるよう努めていく。	こども政策課
1403	子ども・若者の自立に関するネットワークの推進	子ども・若者支援地域協議会に参画する様々な支援機関・団体の専門性を活かし、社会生活を円滑に営むうえで困難を有する子ども・若者の状況に応じた支援を行います。	質的充実	子ども・若者支援地域協議会を開催し、構成機関との連携・整備を図った。 ・代表者会議 2回 ・実務者会議 5回 ・ケース会議 40回 ・ユースアドバイザー講習会 支援者向け 1回 保護者向け 1回 ・スーパーバイズ 1回	【行政】年度当初は、広報活動の強化、地域との連携、若者の活躍の場の創出、中学校卒業後のフォロー体制の整備をめざして取組を進めていたが、小中学校在学中からの早期連携支援や支援の質の向上の重要性を共通認識するに至った。	連携の円滑化、各機関の支援目標達成、協議会の成果の策定・追及、協議会の周知をめざして取り組む。	こども政策課

事業No.	事業	内容	行動目標	平成28年度の取組と実績	平成28年度の取組と実績の評価(効果及び課題)	今後の改善項目	担当課
1404	就職サポート	就職相談、講習会・セミナーの実施や職業訓練校等への誘導、合同就職面接会の開催など就職に向けた支援を行います。	量的・質的充実	<p>就職困難者等を対象に相談、講座、面接会等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談件数 延べ276件(就職者23人) ・フオークリフト講習受講者4人 ・障害者対象ビルクリーニング講座受講者1人 ・医療事務基礎講座 受講者18人 ・就職支援セミナー 参加者21人 ・就労支援フェア(1回目) 参加者71人(就職者7人) ・就労支援フェア(2回目) 参加者94人(就職者7人) ・障害者就労支援フェア 参加者76人(就職者10人) ・三市一町合同就職フェア 参加者36人(就職者7人) ・大学等新規卒業者向け就職面接会 参加者73人(就職者11人) ・子育て世代向け就労支援フェア 参加者33人 ・北摂地域合同就職説明会 参加者202人 ・企業見学会・説明会 参加者49人 ・再就職支援助成金 交付件数14件(就職者11人) ・就労体験 参加者3人 	<p>【行政】子育て世代向け就労支援フェアを相談中心のイベントにリニューアルしたことにより、参加者数は平成27年度の15人から平成28年度は33人と18人増加した。また、従来の就職イベントに加え、新たに北摂地域合同就職説明会を実施し、就職イベント全体の総参加者数は前年と比較し167人増加した。就職サポート事業全体の就職者数は76人。</p> <p>【市民】一般向け合同就職面接会について「満足」と答えた方 59.5%</p>	<p>就職相談、講習会・セミナー及び就労体験の実施、合同就職面接会の開催など、就職に向けた支援を引き続き実施する。また、就職イベントの総参加者数は増加しているが、イベントによっては参加者数が減少していることから、企画内容を検討し、参加者の増加を図る。</p>	商工労政課
1405	大学等への修学意欲のある若者への支援	進学や修学に支障をきたすことなく、一人ひとりのゆめが実現するよう支援を行います。	新規	<p>大学奨学金利子補給事業を実施した。</p> <p>平成27年10月1日から平成28年9月30日までに返済した奨学金の利子額(上限20,000円)を給付した。給付対象となった人には10年間給付する。(ただし毎年申請が必要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続給付者数 127人 ・新規給付者数 217人 	<p>【行政】若者の経済的負担の軽減と、定住促進を図ることができた。事業周知のポスターを多方面に掲出してみたが、申請者の66%は市広報誌で本事業を知ったことがアンケートでわかった。若者への周知方法が課題である。</p> <p>【市民】定住意向率は新規申請者94.7%、継続申請者96%。広く事業周知を、手続きの簡略化を、給付期間短縮や返済額が高い人を優先して当選を、返済額に応じた給付額を、との意見があった。</p>	<p>事業の効果的な周知方法について検討するとともに、手続方法については、アンケートの意見を参考に改善しながら、引き続き実施する。</p>	こども政策課

(2)青少年の健全育成・・・学校・地域・家庭が連携し、次代を担う青少年が自己共にかげがえのない存在であることを認識するとともに、社会の一員であることを自覚し、自ら進んで社会参加するための環境づくりを推進します。

事業No.	事業	内容	行動目標	平成28年度の取組と実績	平成28年度の取組と実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善項目	担当課
1406★	姉妹・友好都市との青少年交流	キャンプやスポーツ等により、姉妹・友好都市と様々な交流機会を設け、子ども同士の交流を通じて、連帯感や協調の精神・国際感覚の養成を図ります。	継続	文化振興課が事務局を務める茨木市国際親善都市協会の運営で、下記のとおり、文化交流に関する事業を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 一般社団法人茨木カンツリー倶楽部青少年国際交流助成事業※ 助成件数 10件 各姉妹都市の幼稚園・小・中学生の絵画・書の交換 参加者数 72人 ※青少年の文化・スポーツ交流を推進するために設置された基金から、姉妹・友好都市等との交流事業に参加する青少年に、費用の一部を助成	【行政】一般社団法人茨木カンツリー倶楽部青少年国際交流助成事業について、海外との交流事業などへの助成が多く、青少年の国際感覚の養成に寄与している。 【市民】実際に海外に行くことで、異なる文化・国籍の人も皆同じ人間であることを感じるなど意識が変わったり、語学習得へのモチベーションが上がるなど、大きく刺激を受けたとの感想が多く寄せられている。	学校等との連携体制も整ってきており、交流活動の地盤が出来ているため、今後も認知度向上に努め、引き続き事業を継続する。	文化振興課
1406★	姉妹・友好都市との青少年交流	キャンプやスポーツ等により、姉妹・友好都市と様々な交流機会を設け、子ども同士の交流を通じて、連帯感や協調の精神・国際感覚の養成を図ります。	継続	小豆島町への訪問と小豆島町からの受入を行い、交流の機会を設けた。 <ul style="list-style-type: none"> しょうどしまオリブキャンプ 40人 いばらきフレンドリーキャンプ 193人 	【行政】毎年ほぼ一定の参加があり、茨木市・小豆島町それぞれの参加者が有意義な交流を行うことができている。 【市民】事業後に参加者同士が文通を始めるなど、交流の輪が広がっている。	茨木市、小豆島町双方にとって無理のない形で継続する。	青少年課
1407★	青少年の国際感覚と英語等の語学力の育成	茨木市国際親善都市協会青少年活動室などにおいて、歌やゲームを通して、楽しみながら英語等を学び、子どもの国際感覚と語学力を養成します。	継続	文化振興課が事務局を務める茨木市国際親善都市協会主催で、下記のとおり、国際交流に関する事業を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> 英語教室「We are Friends!」(小学4年生から中学生対象) 全8回実施、参加者 計132人 中国語教室(小学生対象) 全10回実施、参加者 計35人 「英語スピーチ大会」により中高生の英語学習の成果を発表実施日 平成28年11月6日、発表者数 26人 	【行政】「We are Friends!」について、教室参加者のリピート率が高く、また教室の内容が年々充実しており、青少年が楽しみながら英語を学ぶことができていると言える。今後も、周知に力を入れる必要がある。 「英語スピーチ大会」は毎年出場者のレベルが高く、スピーチのスキルを含めた語学力の向上に寄与している。 【市民】これからの子どもたちのために、このような機会が多くあるといいという声が多く寄せられている。	一層活動の幅を広げ、周知するとともに、事業を継続することで更なる語学力向上に寄与する活動をめざす。	文化振興課

事業No.	事業	内容	行動目標	平成28年度の取組と実績	平成28年度の取組と実績の評価(効果及び課題)	今後の改善項目	担当課
1408★	青少年健全育成団体の活動支援	地域における青少年健全育成活動を推進(地域での人間関係の構築、青少年の地域活動への参加を促進。また、問題行動の抑制、規範意識の醸成)するため、関係団体事業(小学校区こども会育成連絡協議会、小学校区青少年健全育成運動協議会、小学校区青少年会、中学校区青少年健全育成運動協議会、中学校区青少年指導員会、茨木市こども会育成連絡協議会、茨木市青少年指導員連絡協議会)の活動を支援します。	継続	スポーツ大会、挨拶運動、校区巡回街頭指導、啓発・情報提供など地域で青少年の健全育成に取り組む団体に補助金を助成した。 助成件数 86件、助成額 6,357,152円	【行政】地域の実情に応じた取組が実施された。今後も地域における青少年の健全育成のため、補助金を効果的に活用してもらう必要がある。	補助金の交付対象者に申請手続き等をわかりやすく周知する。	青少年課
1409★	青少年を取り巻く環境整備	青少年指導員による有書図書の入立調査、関係機関と連携して行う巡回街頭指導のほか、社会環境浄化活動等により、青少年の健全育成環境の整備を図ります。	継続	各中学校区の青少年指導員が、深夜営業店、カラオケボックス等に青少年健全育成協力の依頼及び社会環境浄化活動関係チラシの配布を行った。 また、無料Wi-Fi通信が利用できる市内の約70店舗のコンビニエンスストアに対し、「啓発のぼり旗」の設置も実施した。 巡回街頭指導 7回、参加者 212人	【行政】各取組を実施することで、青少年健全育成環境整備の一助となっている。	青少年指導員連絡協議会等と連携を図り、継続して実施する。	青少年課
1410★	デートDV防止啓発	恋人間等の暴力(デートDV)の未然防止のため、中学生・高校生等を対象に防止啓発冊子を作成・配布します。また、効果的な啓発となるよう関係機関と連携を図ります。	継続	デートDV予防啓発冊子を市内公立中学2年生に配付した。 中学生計2,628人(希望する高校や大学等にも配付) 市民グループによるワークショップを、市内中学校で実施した。 計4校 595人参加	【行政】デートDVワークショップを実施する市民グループの活動支援を行い、市内中学校への出前講座を行うことで、中学生への直接的、効果的な啓発を図った。 【市民】受講した中学生からの意見としては、「他人事と思っていたけど、5人に1人の割合でDVがあると聞いてしっかり考えようと思った」「自分の行動を見直してみようと思う」「対等な関係を築くことは大事」などの意見があり、おおむね理解が深まった内容であった。	当該市民グループへの活動支援を引き続き行い、市内中学・高校等への周知に努める。	人権・男女共生課

(3)体験活動の充実・・・人間性豊かな人格の形成をめざし、子どもの生きる力を育む環境づくりを推進するため、大人と子どもが協働し、地域にある様々な資源を生かしたボランティア活動や体験活動、交流活動を充実します。

事業No.	事業	内容	行動目標	平成28年度の取組と実績	平成28年度の取組と実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善項目	担当課
1411 ★	青少年の野外活動	野外キャンプなど、子ども同士の連帯感の育成と自然の大切さを感じる心を育むことのできる場を提供するとともに、青少年活動の指導者の育成を行い、子どもの健全育成を支援します。また、学校教育と連携し、より多くの青少年に自然体験ができる機会を増やします。	量的・質的充実	主に青少年を対象とした事業を実施するとともに、小学校自然宿泊体験学習の受入を行うと共に、大学生リーダーであるキャンプカウンセラーの育成を行った。 ・主催事業 11事業 ・子ども会キャンプの実施 116子ども会 ・小学校自然宿泊体験学習の受入 30校 ・年間利用者数 303団体、11,707人 ・キャンプカウンセラー数 78人(大学1～4年生)	【行政】主催事業や子ども会キャンプでは幅広い年齢層の青少年に、小学校自然宿泊体験学習では全小学校5年生に、それぞれ体験活動の機会が設けられており、多くの青少年に豊かな体験と学びの場を提供することができた。 キャンプカウンセラー育成においては、年間を通じた研修や利用者対応をとおして、青少年への理解を深めリーダーとしての知識と技能を高めることができた。 【市民】主催事業では、以前のキャンプの思い出等を動機として参加している子どもが多いことに加え、付添いの保護者や学校教員からも子どもの成長の機会につながることを実感する声も多い。 キャンプカウンセラーは、多様な利用者との関わり等が自身の成長につながっていることを実感し、活動への意欲を高めている。	事業内容の充実を図りながら継続して実施する。	青少年課
1412 ★	青少年センター行事	子ども達に豊かな体験活動の機会を提供するため、上中条青少年センター主催事業として、上中条青少年センターを中心に市の各施設を活用し、土曜日講座・イベントを実施します。	継続	主に青少年を対象に「子どもセミナー」によるものづくり体験や「ふれあいコンサート」での吹奏楽の鑑賞、青少年センターフェスティバルでは高校生バンドの発表の機会を設けた。 ・子どもセミナー 45回、717人 ・ふれあいコンサート 2回、538人ほか合計2,107人	【行政】各事業を実施することで、青少年の豊かな体験活動の機会を提供できた。対象や実施場所により参加状況に差がある。 【市民】バンドフェスタで発表した高校生からは演奏の機会ができてうれしい、他校の生徒と交流ができて色々学ぶことができたとの感想が多かった。	内容等の充実を図りながら継続して実施する。	青少年課
1413 ★	各種スポーツ・レクリエーション活動	仲間や参加者とのコミュニケーションを図り、スポーツへの愛好心を育てるため、スポーツ・レクリエーションに親しむ機会となる行事等を開催します。	継続	31公民館区において地区スポーツ・レクリエーション大会の開催を支援し、地域住民の健康増進と親睦を図った。 参加者数 39,870人(大人を含む)	【行政】降雨の影響があったが、開始時間を遅らせたり、会場を体育館にするなどの工夫により、大会を中止する地区が少なかった。	地区スポーツ・レクリエーション大会に多くの地域住民の方が、参加しやすい内容を盛り込むよう促していく。	スポーツ推進課